

平成24年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の地域における評判は近年の努力が実を結び改善されつつあるが、決して風評が改善された訳ではない。地域や保護者から信頼を勝ち得るにはさらなる学校改善が必要である。退学者や懲戒処分者が以前に比べて大幅に改善されたものの、まだまだ減らす必要がある。退学者及び懲戒処分者のさらなる減少に取り組み、地域に貢献する学校となり、保護者や地域から信頼されると同時に生徒自身が本校を母校としてプライドを持てる学校となることをめざす。

さらに、本校に入学した生徒の全員が卒業し、生徒それぞれが自己実現を果たし、希望の進路に向かって歩めるような学校をめざす。そのために、今後は学力向上にしっかりと取り組む。個に応じた教育に転換するとともに、一層きめ細かな指導を行い、基礎学力を確実に身につける教育を実施し、卒業時には生徒全員が自己実現できる夢と希望に溢れる学校になることをめざす。

1. 生徒の笑顔が溢れる学校
2. 保護者や地域から信頼され地域に貢献し愛される学校
3. 生徒の夢と希望を育み自己実現がかなう学校

2 中期的目標

- (1) 確かな学力の定着へ向けた取り組みを推進する。
平成23年度入学生から教育課程を大幅に変更し専門コースを導入した。いずれも2年生になってから選択させるため、1年生ではガイダンスを充実させ、1年の秋に自己の適性や進路を決められるように指導する。
昨年度、2年次の専門コースの各科目、教養コースの各科目の教材開発を行ったが、3年次の教材開発を行う（教材開発チーム）。
○「分かる授業」の推進
1年生、2年生で実施している国語、数学、英語で習熟度別授業については、学習の到達目標を見直すと共に、さらなる効果的かつ有効的な授業展開の工夫改善に取り組む。
○専門コースの充実
「環境科学コース」・・・理科系に興味のある生徒を集め、その能力を高める。ホテルの人工飼育、農業体験等との関連付けにより、自然環境を守る意識をもつ人材を育成する。
「国際文化コース」・・・4年制大学への進学希望者に対して大学で学ぶ意欲を引き出すと共に大学へ入学後、授業について行ける学力を身につけさせる。日本の伝統や文化についても学び誇りを持つ人材を育成する。
○学校設定のコースの授業の充実
義務教育段階の数学（算数を含む）、理科等の学び直しを行い、社会に出て困らないための基礎学力を徹底して定着させる取り組みを行う。
○漢字力、英語力の開発及び定着
漢字力の定着
1年生終了時に全生徒に漢字検定を受けさせ、漢字力について全国標準の力と自信をつけさせる。
英語力の定着
2年生終了時に全生徒に学力に応じた英語検定を受けさせる。全員4級以上の修得を目指す。全国標準の力と自信をつけさせる。
- (2) 生徒が個々に抱えている進路目標を達成すべくキャリア教育の充実に取り組む。卒業時には進路未決定者を0にする。
○入学時からキャリア教育に取り組み、夢と希望を語らせるとともにしっかり目標を立てさせる。
○就職希望者は100%の合格をめざし、徹底した学力をつけさせる。
○大学進学も十分可能であることを1年生から自覚させ自身を持たせるとともに目標に向かって学習する意欲を引き出す。
○「総合的な学習の時間」を活用し「志学」を3年間で35時間を設定し、3年間を見通したカリキュラムを設定する。
○キャリア教育に対する3年間を見据えた指導計画を策定する。
○グアムとの国際交流を推進し定着させ、生徒のグローバルな視点を持たせる。
- (3) 入学した生徒が全員卒業できる学校にする。
○教育相談システムを充実させ、生徒の状況を把握し、よりよい方向へ導くような取り組みを充実させる。精神的な病気等については外部機関との連携を行う。
○学校生活支援チームを充実させ、退学防止へ全校一丸となるように取り組む。
- (4) 環境教育の推進及び地域貢献をおこない、地域にはなくてはならない学校となる。
○ホテルの人工飼育や農業体験などにより地域やとの交流を推進し、関係諸機関と連携し、環境を守る人材を育成すると共に地域の環境保全の核となる。
○ハートピア泉北（老人介護施設）や太平寺幼稚園、福泉中央保育所など地域の施設との交流を推進し地域に根を張ると共に、生徒のコミュニケーション能力や自尊感情を養う。
- (5) ICTの活用
○電子黒板を積極的に導入し、分かる授業の取り組みを推進する。
○教材を共通のコンテンツとして電子データで作成し、同一の教科で同一レベルの教科指導が行えるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成25年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>I、保護者200名生徒747名 [平成23年度は保護者142名生徒737名] のアンケート結果</p> <p>※（ ）は保護者アンケート。また、「よくあてはまる+ややあてはまる」の集計%（肯定的意見）。のこりの選択肢は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の否定的意見。[]内は平成23年度の結果。</p> <p>1. 学校へ行くのが楽しい。(子どもは楽しく学校へいっている。) 生徒68%[64%] 保護者84%[80%]</p> <p>2. 自分の学級は楽しい。(子どもは、自分の学級がたのしいと言っている。) 生徒72%[69%] 保護者70%[71%]</p> <p>3. 学習の評価はテストの成績だけでなく、日頃の努力や取り組みなども含まれていて納得できる。(先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。) 生徒67%[60%] 保護者71%[65%]</p> <p>4. 悩みや相談に応じてくれる先生がいる。(子どものことについて気軽に相談できる。) 生徒45%[40%] 保護者60%[59%]</p> <p>5. 遅刻や欠席をしないで頑張っている。 生徒61%[59%]</p>	<p>I. 第1回学校協議会(平成24年10月17日)の意見書は以下の通りです。</p> <p>第1回学校協議会において、校長先生より提示された「入学した生徒が全員卒業できる学校にする」と言う中期的目標の一つの実現に向けて、議論を行いました。</p> <p>この結果を踏まえ、次のような内容を学校協議会の意見として、校長先生に提出します。</p> <p>【学校協議会の意見】</p> <p>1、「入学した生徒が全員卒業できる学校にする」(以下、校長先生からの提案と記す)は、校長先生の強い決意であり、教職員はこの意を汲んで、当然のことながら校長先生が納得できる教育活動とその結果を導き出すこと。</p> <p>2. 教職員は、校長先生からの提案について、賛成でないと自身の教育力の学校の自己否定となる。従って、この実現に向けて全力で取り組むこと。</p> <p>3、校長先生からの提案は、「中退防止」と同義である。よって、中退の主な要因となる留年・長欠の二つについて、</p>

府立福泉高等学校

<p>6. 学校のきまりやルールは適切である。 生徒 52%[44%] 保護者 72% [72%]</p> <p>7. 学校のきまりやルールをよく守っている（子どもは校則や決まりをよく守っている） 生徒 68%[61%] 保護者 74% [75%]</p> <p>8. 将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある。（総合の授業などで）（将来の進路や職業などについて子どもに適切な指導を行っている。） 生徒 61%[64%]</p> <p>9. 科目選択や進路については、ていねいな説明がありよくわかる。（学校は、科目選択や進路についての情報をよく知らせてくれる。） 生徒 61%[54%] 保護者 58% [51%] 保護者 70% [61%]</p> <p>10. 進路や興味・関心に応じた選択科目やコースが設置されている。 生徒 60%[50%] 保護者 60% [51%]</p> <p>11. 先生や学校は進路指導をしっかりとやっている。（子どもの進路について、保護者との連絡や相談をよく行っている。） 生徒 64%[平成 23 年度は項目なし] 保護者 52% [44%]</p> <p>12. 体育大会や文化祭は楽しい。（子どもは体育大会や文化祭を楽しんでいる。生徒 78%[74%] 保護者 78% [80%]</p> <p>13. 修学旅行は楽しかった。（1 年生は「修学旅行が楽しみだ」）（修学旅行は保護者として良かったと感じた。（1 年生は修学旅行を楽しみにしている。)) 生徒 70% [70%] 保護者 74% [80%]</p> <p>14. 生徒会は行事などでよく頑張っている。（学校は、行事など生徒の学校生活が充実するような取り組みを積極的に行っている。） 生徒 59% [50%] 保護者 75% [74%]</p> <p>15. クラブ・サークル活動または生徒会活動に参加している。（クラブ・サークル活動や生徒会活動は活発だ。） 生徒 39% [35%] 保護者 55% [52%]</p> <p>16. 先生や学校は教育相談をしっかりとやっている。（先生は、子どものことについて保護者への連絡や相談をしっかりと行っている。） 生徒 52% [平成 23 年度は項目なし] 保護者 68% [57%]</p> <p>17. 人権の大切さや社会のルール、命の大切さを学習することがよくある。（学校は、子どもの人権や社会のルール、命を大切に育む気持ちを育てようとしている。） 生徒 51% [44%] 保護者 63% [59%]</p> <p>18. 先生や学校は、いじめに、しっかりと対応してくれる。（学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。） 生徒 50% [34%] 保護者 62% [63%]</p> <p>19. 成績や個人情報などのプライバシーが守られている。（学校は成績や個人情報などのプライバシーを守っている。） 生徒 69% [57%] 保護者 80% [77%]</p> <p>20. 国際交流〈グアムの学校との交流〉や環境教育〈清掃活動やホテルの飼育〉などがさかんである。 生徒 66% [43%] 保護者 76% [73%]</p> <p>21. 校内（教室、廊下、トイレ、体育館、校舎まわりなど）はきれいな状態である。 生徒 54% [43%] 保護者 69% [66%]</p> <p>22. トイレは使いやすく清潔である。 生徒 57% [49%] 23. 保健室は利用しやすい。 生徒 58% [45%] 24. 図書室は利用しやすい。 生徒 28% [48%]</p> <p>25. 学校で地震や火災などが起こった場合、どのような行動をとればよいか、よく知らされている。（地震や台風などの場合の対応については、よく知らされている。） 生徒 49% [50%] 保護者 68% [62%]</p> <p>以下、保護者のみに対する質問</p> <p>26. 子どもは学校に友達がいる。 保護者 94% [96%] 27. 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。 保護者 65% [56%] 28. 学校は、保護者の願いによくこたえており、対応が良い。 保護者 65% [54%] 29. 先生は子どものことを理解している。 保護者 66% [61%] 30. 子どもは授業がわかりやすいと言っている。 保護者 58% [49%] 31. 成績通知表は、子どもの成績がわかりやすいように工夫されている。 保護者 73% [67%] 32. 先生は生徒の間違った行動を指導してくれている。 保護者 73% [71%] 33. 学校生活についての先生の指導は適切である。 保護者 75% [64%] 34. 学校は授業や行事を参観する機会を積極的に設けている。 保護者 71% [68%] 35. 子どもを福泉高校に入学させて良かった。 保護者 77% [74%]</p> <p>II. 保護者の回答率が 1.4 倍になった。5 月より校長ブログを立ち上げ、学校の近況や教育方針について広く発信するようにしている。「学校へ行くのが楽しい」生徒 68%[64%] 保護者 84%[80%]及び「子どもを福泉高校に入学させて良かった。」保護者 77%[74%]を増やしてゆきたい。そのための方策として、平成 25 年度の学校経営計画を立てた。特に、部活動加入率を現在の 29%から 50%をめざして努力したい。「校内はきれいな状態である。」という意識が 生徒 54% [43%] 保護者 69% [66%] と低いので、玄関、中庭に花園を創設する。心む環境での学習が必要であると考え。その他の項目についても、ていねいに対応してゆきたい。</p>	<p>学校として次のように対応していただきたい。</p> <p>①留年について</p> <p>A. 留年生を無くす。 高校授業料無償化が導入されて、今年で 3 年目となる。この制度は、高校での学びを社会全体で支援し、高校生が将来、社会の担い手として広く活躍していくことを期待している。教職員がこの趣旨をよく理解し、留年生を出さないこと。 また、保護者とも連携を密にして、何があっても卒業するまでの間、学業を継続することに理解と協力を求める。</p> <p>B. 確かな学力の定着 魅力ある授業・分かる授業を展開し、生徒に学ぶ喜び絶えず与える。このために、教材開発、指導法の改善等について、教員が研究と修養に努める。 そしてその成果や教案を共有し、余力を生み出して、そのエネルギーを生徒のきめ細かい個別指導に当てる。 教員は、充実した授業を実施し、常に単位認定を超えて授業内容で生徒の心を繋ぐよう努める。</p> <p>C. 学年団における意思統一 入学時から卒業までの 3 年間、学年団で所属生徒を抱え込んで指導する。</p> <p>D. 単位認定の弾力的運用 イ. 評価の観点を多様化する。（意欲、関心、態度などを重点的に行なう） ロ. 授業で教員の指導に従っている生徒は、基本的に単位認定をする。授業についてきている生徒の単位認定ができないのは、教員の指導力不足と考える。 ハ. 指導に従わない生徒がいても、指導放棄するのではなく、その理由を追求し、学力診断や授業内容の検討などを行って、生徒の興味・関心を引き出し、授業に参加する態度を育てる。 ニ. 仮進級や年度内追認定制度などを確立し、あらゆる機会を活用して、単位認定を行なう。</p> <p>E. 教務内規について、 生徒の自主的な学習態度が確立するまで、教務内規は必要と考えるが、その運用は単位認定につながるよう、あくまで弾力的に行う。</p> <p>②長欠生徒について 専門機関とも連携をし、生徒一人ひとりに合った指導法によって、教務内規を弾力的に運用し、進級・卒業を図る。</p> <p>II. 第 2 回学校協議会（平成 25 年 2 月 27 日）の本年度の学校協議会まとめは以下の通りです。</p> <p>①校長先生のリーダーシップのもと、学校経営計画が内容を伴って実行されて成果が上がっている。来年度も継続して一層の努力を期待したい。</p> <p>②きめ細かいカリキュラムと少人数習熟度別授業を活かし、基礎学力の充実と生徒の自己実現に向けての指導力アップを願う。</p> <p>③入学した生徒ががんばって努力して全員卒業する学校の実現。</p> <p>④先生方の努力が外部から分かるような工夫</p> <p>A. 学校教育自己診断の形を整える。 生徒向け、保護者向け、教職員向けのアンケート項目がばらばらなので、揃えてはどうか。成果・課題がわかりやすくなる。</p> <p>B. 授業評価（アンケート）の内容を分かりやすくする。</p> <p>⑤コミュニティスクールとして地域との連携を一層深め、さらに地域から愛される学校にする。</p> <p>⑥初めての海外修学旅行の取り組みを、他校の参考となるよう研究発表する。</p> <p>⑦学校協議会の意向を、福泉高校の教育活動に反映する。</p> <p>III. ①第 1 回学校協議会の意見書について、学校のめざす方向性について、ご理解とご承認をいただいたものと、大いに意を強くしている。生徒に寄り添った一層の指導が出来るように、生徒理解・教育相談のスキルを高める教職員研修を 5 回行った。 また、学校協議会の意見を受けて、進級・卒業に関する内規の根本的な見直しを行い進級・卒業規定の緩和と弾力的な運用が行えるように整備を行った。</p> <p>②第 2 回学校協議会のまとめについて、目的をもった教育活動と教職員の地道な教育活動について良い評価をいただいた。学校教育自己診断の指標について、統一性をもったアンケート項目にするように改善したい。「全員が卒業する学校」では足りないのではという指摘をいただいた。当たり前のことを当たり前する「学業にも、部活動にも、学校行事にもがんばって全員が卒業する学校」をスローガンにしてゆきたい。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 確かな学力の定着	1. 「分かる授業」をめざした授業改善 2. 漢字力、英語力の開発及び定着	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業のあり方を再検討する。 平成23年度末に習熟度別授業に対する総括を当該教科から提出をさせ、それに基づいた改善を図る。 分かる授業の研究及び開発と実施 授業改善の実施 生徒からの授業評価に基づいた授業改善計画を早い時期に提出させて授業改革に取り組む。 漢字力の定着 1年生終了時に全生徒に漢字検定を受けさせ、漢字力について全国標準の力と自信をつけさせる。同時に、学習する目標や意欲を引き出す。また、教員には具体的な指導目標を与える。 英語力の定着 2年生終了時に全生徒に学力に応じた英語検定を受けさせる。全国標準の力と自信をつけさせる。同時に、学習する目標や意欲を引き出す。また、教員には具体的な指導目標を与える。 	<p>1. 習熟度別授業を実施する科目は長期欠席者を除いて全員が単位を修得することをめざす。生徒の授業アンケートにおいて「授業がとても良く解る」の回答が60%を越えることをめざす。</p> <p>2. 漢字検定4級合格率が60%以上をめざす。</p> <p>英語検定4級合格60%以上をめざす。</p>	<p>1. 習熟度別授業について、十分成果をあげることができなかった。いっそうの研さんをつむことが必要である。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業アンケートにおいて「内容に興味関心がもてた」1年49%2年63%3年61%「知識や技能が身についた」1年50%2年65%3年61%であり1年を除き目標を達成している。(○) 小河教育委員のモジュール授業に関する研修を11月19日に実施し、1月10日から、1年生の全クラスで百マス計算を毎日実施することとした。来年度より発展させたいと考えている。(○) 電子黒板を全HRクラスに導入することができた。これを切り札として平成25年度はわかる授業の増加に一層努力してゆきたい。(○) <p>2. 漢字検定は、2月1日に1年生全員で受検した。英語検定は、1月25日に2年生全員で受検した。成果については目標を達成することはできなかった。(△)</p>
(2) 進路指導の充実	1. 大学進学希望者に対する指導の充実 2. 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」を活用し就職率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携を継続するとともに新規連携校を模索する。 H23年度の取り組みを継続し、桃山学院大学・プール学院大学・帝塚山学院大学・太成学院大学との連携を継続するとともに強化する。近畿大学等上記以外の大学へも大学見学会を開催し生徒の進学意識を高める。 保護者に対して奨学金や国の教育ローンの説明会を1学期に実施し、大学進学への資金計画をサポートする。 H24年度からスタートする2つの専門コース及び教科「教養」の3年時に学習する教材と学習プログラムを開発する。 「職業適性診断テスト」及び「キャリアカウンセラー」「外部講師」を活用して生徒自身のモチベーションを高め、進路に対する意識を高めるとともに第3学年の学年団を中心に全校あげて就職先の開拓を行う。 	<p>1. H24年度の大学進学者数前年度比1.5倍をめざす。(30名以上)</p> <p>2. H24年度の年度末時点の就職率が97%以上になることをめざす。(3年後には100%) 就職試験1次合格者を60%以上にする。(3年後には80%)</p>	<p>1. 大学進学者予定者39名短大21名を達成し、大学進学指導充実の成果があった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> バスをチャーターして、桃山学院大学・プール学院大学・帝塚山学院大学・羽衣国際大学・近畿大学への見学会を実施しのべ100名の参加があり、まず見学すること、説明をうけることから始めて大学への意識改革に努めた。(○) 保護者に対する奨学金のサポートは、進学支援機構の活用が前年度83件から106件に増加した。保護者に対するきめ細かな広報活動の成果として結実した。(○) <p>2. 平成25年1月末の内定率は70%であり、苦戦している。また、一次合格率は、57%であり、目標を若干下回った。(△)「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」を活用して、「職業適性診断テスト」を全学年で実施した他、「キャリアカウンセラー」による就職内定者講座なども実施することができ、意識改革を行うことができた。(○)</p>
(3) 退学者数の減少	さらなる退学者及び懲戒処分者の減少	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の活性化及び充実 教育相談室の整備 中退防止のためのプロジェクトチーム 中退になりそうな生徒の情報交換と防止の取組を教育相談委員会、中退防止コーディネーターを中心に組織的に推進する。 規範意識の向上 生徒理解を推進し、きめ細かな指導を充実させる。 家庭訪問の充実 学年集会の開催(適宜実施) 全校集会の開催(校長から直接生徒に話しかける機会を設ける。始業式、終業式以外に1学期に1回実施を目標とする) 	退学者数及び懲戒処分者数の前年比20%減少をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 懲戒処分者は、31件50名(平成23年度)46件58名(平成24年度)となり増加した。退学者については、20名(平成23年度)であったが、改善が見られなかった。(△) 教育相談委員会を機能させ、発達支援会議を4回、ケース会議を15回開いた。また、発達障害に関する研修を2回行い生徒理解を深めた。(○) 全校集会以外にも直接話しかける機会を設け「夢」「体験」「希望」の話、規範意識の涵養に関する話をおこなった。(○)
(4) 環境教育の推進及び地域貢献	1. スクールカラー・サポート事業の推進(ホテルの人工飼育継続及び発展) 2. 近隣施設や地域との交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> H21年度から開始したホテルの人工飼育を改良し幼虫の生存率を上げる。 えさとなるカワナナの効率的な養殖を開始する。 地元と連携した取り組みに発展させるため「ホテル保存会」(仮称)を設立し、地元の力を活用した事業に発展させ今後の継続性を高める取り組みを行う。 H24年度からスタートする「環境科学コース」を視野に入れた学習プログラムの開発を行う。 ハートピア泉北(老人介護施設)や太平寺幼稚園、福泉中央保育所など地域の施設との交流を推進する。 農業実習を通じての地域との交流を推進する。 	<p>1. H25年の6月には100匹以上の成虫を乱舞させる。</p> <p>2. 地域や生徒と入所者や園児との交流を10回以上おこなう。</p>	<p>1. 6月11日の蛍観賞会には、501名の参加があった。残念ながら12日は雨天のため観賞会を中止した。地元の人たちから楽しみにされる行事となることが出来た。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホテルの幼虫の育成プログラムは、試行錯誤を繰り返しながら、ノウハウを蓄積しつつあり、地域との協働体制を構築する前提が整いつつある。(○) <p>2. 地域交流については、ハートピア泉北との交流、鳳商店街との交流、太平寺幼稚園、福泉中央保育所、ビッグバン、南図書館でのボランティア、「私の水辺」泉北地域交流会に参加など活動範囲を広げ、目標の10回を達成することができた。自尊感情の少ない生徒に自尊感情をもたせ、自己肯定感をはぐくんだ。(○)</p>